

多自然川づくり取り組み事例

タイトル : 旧北上川における住民参加型の親水空間の整備		
水系/河川名 : 北上川水系 旧北上川	河川分類 : 大河川	
河川の流域面積 : 1915	整備計画流量 : 2000m ³ /s	セグメント : 3
事業 : 災害復旧	事業開始年度	平成23年度
目標設定 : 定性的	段階	D(実施・施工時)
課題・目的(主な) : 湿地、ヨシ原の保全・再生・創出、干潟、浅場の保全・再生・創出		
工法(主な) : 築堤、護岸整備		
配慮事項(主な) : 歴史・文化への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景>

かつて、石巻市は川湊として栄え、川辺には多くの住宅や船があり、川と住民の暮らしは非常に身近なものであった。当該地域には、昭和初期ごろ、小学校の児童が旧北上川で泳ぎ、水の楽しさや恐ろしさを学ぶ場があった。

しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、石巻市は甚大な被害を受けた。そのため、津波や高潮、洪水などの水災害から地域住民や市街地を守る重要な防御線として、旧北上川の堤防整備を令和2年度の完成を目指し、実施している。



日和山より中央地区を望む(震災前 平成22年11月撮影)

<目的>

旧北上川と市民が深く繋がっていることを念頭に、東日本大震災により甚大な被害が生じた旧北上川河口部において、洪水や高潮、津波から市街地を防御するための堤防と「市民の集いの場」、「憩いの場となる水辺空間」の整備を実施し、かわまちづくりを促進する。

当該地域においては、住吉小学校が隣接しているため、子供たちが旧北上川の河道の変遷や水辺環境を学ぶ自然の場を目指し、整備を図る。



旧北上川で遊ぶ住吉小学校の生徒たち(昭和初期)

取り組み内容・対策例(1/2)

<住吉小学校ワークショップ>

新たにつくる堤防・護岸を、地域の特色や利活用に配慮し、整備を進めていく上で、近接する住吉小学校の子供たちの意見を聞くために、ワークショップを実施した。

6~8名ごとの班に分かれ、グループワークを行い、アイデアを書いた付箋を平面図に貼り付けた。また、各自で「堤防でしてみたいこと、欲しいもの」の絵を書き、発表会を実施した。



ワークショップの状況

●実施概要

日時: 平成25年11月

場所: 石巻市立住吉小学校 体育館

対象: 小学4年生~小学6年生 79名

●グループワークテーマ

堤防でしてみたいこと、欲しいもの



グループワークの状況

